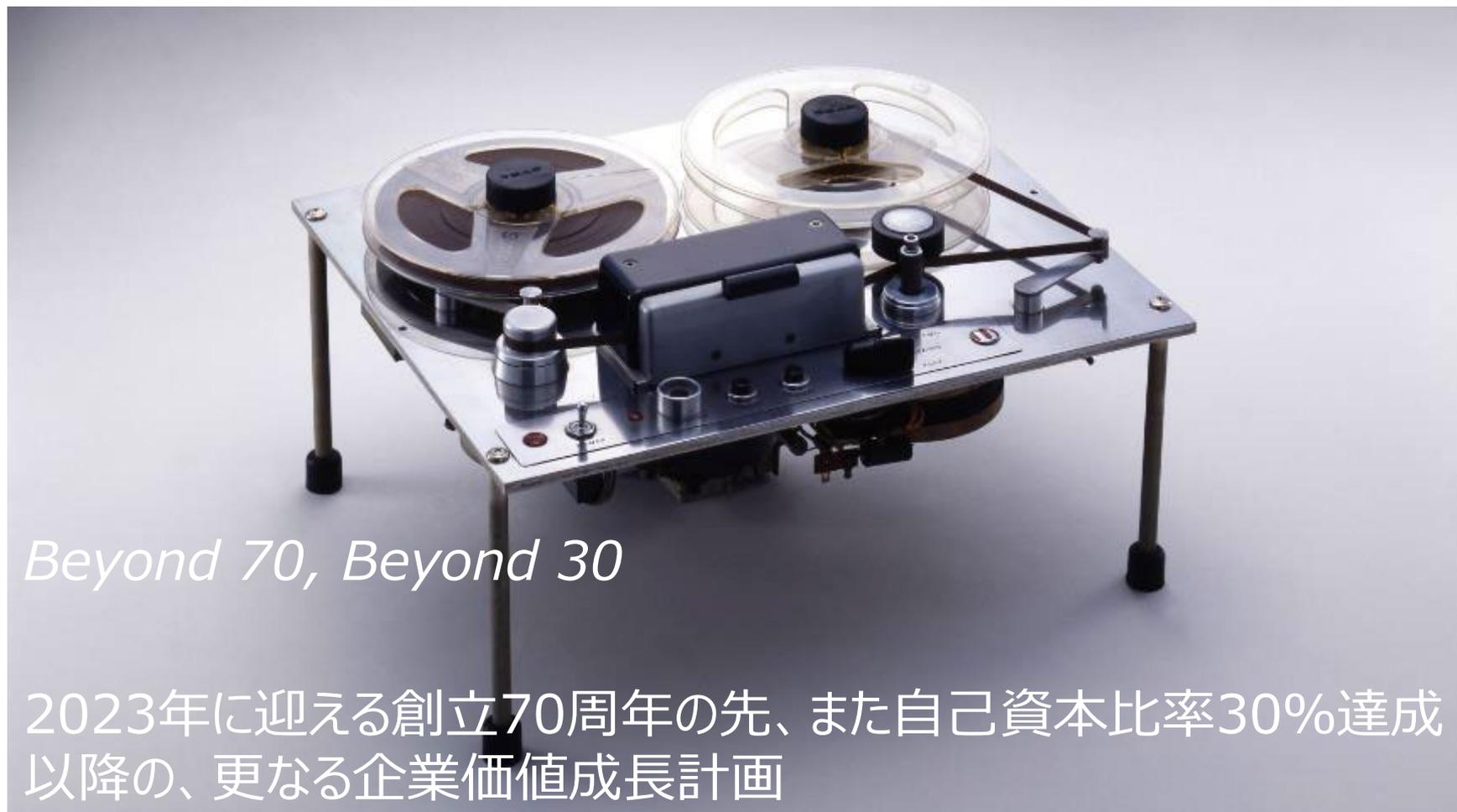


ティアック株式会社 新中期経営計画

B-7030計画

2022年5月

■ B-7030計画とは



Beyond 70, Beyond 30

2023年に迎える創立70周年の先、また自己資本比率30%達成以降の、更なる企業価値成長計画

基本戦略と経営目標

- 基本戦略 ニッチトップ戦略
 - 特定領域でトップシェアを獲得したのち関連製品のシステム・ソリューションを展開することで、当該領域および関連新領域での堅実な事業拡大を図る

	2022年3月期 実績	...	2025年3月期 計画	CAGR
■ 財務目標				
売上収益	160.0億円		175億円以上	3.0%
営業利益	6.5億円		11億円以上	18.9%
ROE	15.9%		17%以上	
自己資本比率	24.5%		30%以上	
フリーキャッシュフロー	▲2.9億円		8億円以上	

- 配当政策

2023年3月期以降
自己資本比率
25%以上で復配実施

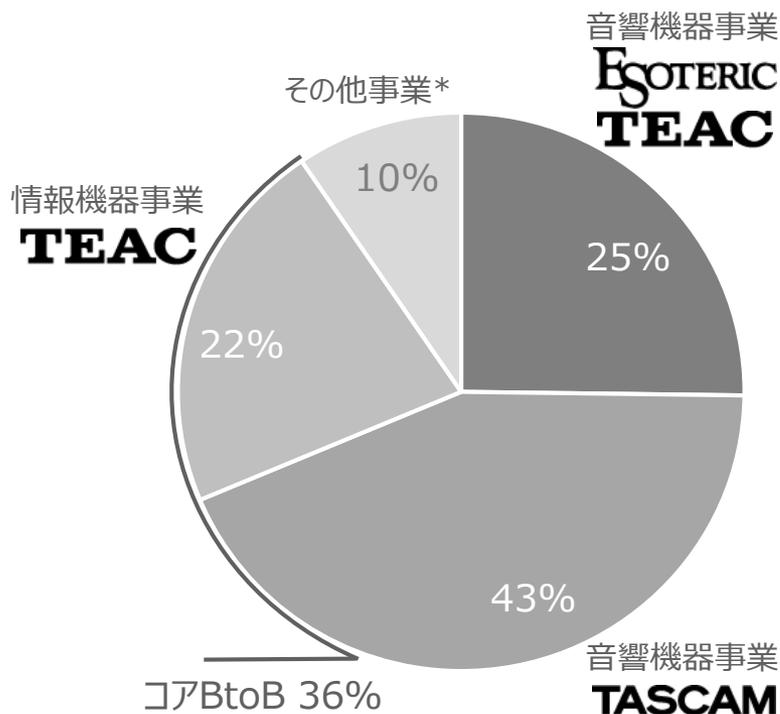
- 各事業領域で高シェアの記録再生機器群にネットワークソリューションを付加価値として加えた「BOX + SOLUTION」ブランドとして新領域での認知度を高め、新たな高シェア事業を確立



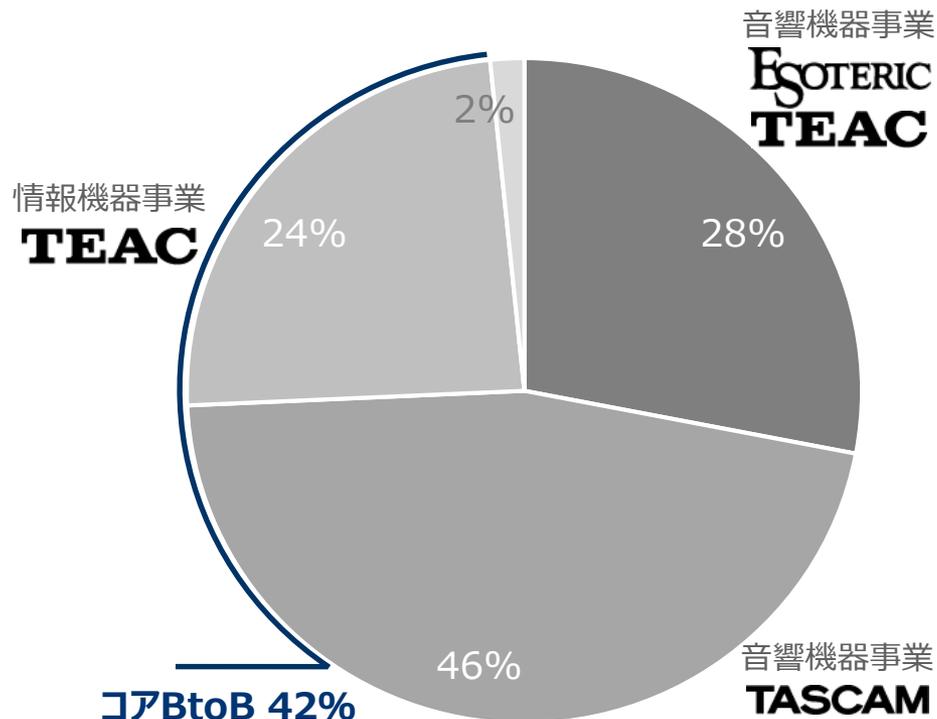
BtoB事業の再成長

- コロナ禍によりエンドユーザーの投資抑制が続いたコアBtoB事業は、コロナ後の投資再開を見据え新たなニーズに合致する「BOX+SOLUTION」をグローバルに展開し、全社収益力を更に向上

2022年3月期 実績
売上収益 160.0億円



2025年3月期 計画
売上収益 175億円



*海外販売子会社による産業用光ディスクドライブのディストリビューション事業、生産子会社によるEMS事業



音響機器事業



■ プレミアムオーディオ機器

➤ ブランド価値向上によるファンベースの拡大

- ESOTERIC 他ブランドの追随を許さない高音質オーディオ機器の更なる拡充
- TEAC 各カテゴリーにおけるオンリーワン製品への戦略投資

■ 音楽制作・業務用オーディオ機器

➤ 新領域開拓による収益力アップ

- BtoC 最高音質を求める世界中のクリエイター向けにソリューションを提供
- BtoB ミキサーを主体とした新たな事業軸を構築し、周辺機材とシステム販売

		2022年3月期 実績	...	2025年3月期 計画	CAGR
■ 財務目標	売上収益	109.9億円		130億円以上	5.8%
	セグメント利益	12.8億円		16億円以上	7.6%
	セグメント利益率	11.7%		13%以上	



情報機器事業



■ 計測機器

- アンブ・指示計のグローバルトップへ
 - ・ 半導体製造装置及びロボット市場におけるシェア拡大
 - ・ フィールドバス戦略によるグローバル市場の開拓

■ イメージング システム ソリューション機器

- 最先端画像技術とサーバーアプリケーションによる高付加価値ビジネスの成長
 - ・ 世界の手術室市場での採用に向けたレコーダーのラインナップ展開
 - ・ 航空機等の移動体エンターテインメント市場におけるシェア拡大

■ システム ソリューション ビジネス

- DX推進のプライマリーパートナーへ
 - ・ システム開発受託型から、コンサルティングに基づくプロセス提案型へシフト

		2022年3月期 実績*	...	2025年3月期 計画	CAGR
■ 財務目標	売上収益	34.9億円		42億円以上	6.3%
	セグメント利益	1.7億円		5億円以上	43.6%
	セグメント利益率	4.8%		12%以上	

*2023年3月期適用の新報告セグメントに準じ、海外販売子会社による産業用光ディスクドライブのディストリビューション事業は含まず

- 全てのステークホルダーに「品質」を約束するブランドとなることで企業価値の持続的成長を目指す

■ ESG経営

- Environment 廃棄物削減、再利用促進によるSDGs活動との協調
- Social 音楽文化育成、再生製品の地域社会への提供等による社会貢献、女性活躍の推進
- Governance 事業計画を含む情報開示の充実等による透明性の向上

■ サプライチェーン管理

- 部品調達 高付加価値製品へのモデル数絞込み、共通キーデバイスの効率的配分、設計変更
- 製品物流 海外生産体制の再編による供給柔軟性確保

■ 開発技術管理

- 新規技術の蓄積と活用によるユニークな商品開発と設計期間の短縮
- AI、IoT、ロボットを駆使した生産効率と製品品質の向上

この資料に記載されている記述のうち、将来見通しに関する記述は、当社の現時点での入手可能な情報に基づいている為、既知または未知のリスクおよびその他の不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しと大幅に異なる可能性があります。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、主要市場（日本、北米、欧州、アジアなど）の経済状況・需要動向、同市場における貿易規制等各種規制、ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、部品・原材料の供給、物流網の安定性、急激な技術変化、などがありますが、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。